

優秀賞

「一生忘れられないあの日」

智辯学園和歌山高等学校 2年 金谷 ひまり

去年の夏、私はかけがえないものを得る事ができた。

私は友人に誘われて、関西の医療系学生団体が主催する活動に参加した。中高生が「自殺を防ぐ」という課題解決に向けてプランを競い合うというプログラムである。毎日夜の三時まで電話ミーティングをしたり、プランを練ったりしていた。優勝するには最終選考に通る必要があったのだが、私たちのチームは最終選考通過確実だと期待されていたため、優勝しか見えていなかった。このまま行けば優勝できるだろうとさえ思っていた。

ついに迎えた最終選考では今までで一番のプレゼンをすることができ、通過だと確信して、チームの子たちとハイタッチしていた。だが、通過チーム発表の時、私たちのチーム名は呼ばれなかった。手が震えた。これは夢なのではないだろうかと何度も疑った。涙がポロポロこぼれて崩れ落ちてしまった。

正直私たちのプランの何が駄目だったのかは今でも分からない。でもこの落ちた経験から沢山のことを学ぶことができた。夜中まで活動して、体力もほぼ限界の状態でプロジェクトに向き合っていたことが本当に楽しかったということ。大勢の人に自分の意見を伝えることがいかに恵まれているかということ。そして、私には心強い仲間が沢山いるということである。落ちてから一週間ほどはずっと泣いてばかりいた。そんな私に、私の先輩方は一緒に泣いて下さったり、何度も電話で相談に乗って下さった。担任の先生にも、「よく頑張ったね。」と励まして頂いた。他にも友達や家族も元気づけてくれた。普段は周りの環境が当たり前で、自分が恵まれた環境にいることを意識しないが、この失敗のおかげで再確認することができた。

あの落ちた時の悔しさが小児科医になりたいという夢に向かって私を動かしてくれている。だからあの日は私の人生で最低かつ最高の日だ。